

ドクター+フジ

仁義なき死と豪快な遺言

首や脇にできることが多く、脳にできるのはまれで、罹患するのは10万人

松方弘樹さんが頭痛や体のしびれを訴えて病院に行ったのは、昨年2月。開頭し生体検査を行った結果、脳の悪性リンパ腫と診断され、そのまま入院となりました。

悪性リンパ腫とはリンパ系組織のがんのこと。

② 松方弘樹



豪快な生き方を貫いた松方弘樹さん

脳は、発生した場所によってさまざまなですが、頭痛、吐き気、手足の麻痺や言語障害、視覚障害などがあります。ボーッとしたり、物忘れ

原因はハッキリと解明されていません。脳は、発生した場所によってさまざまなですが、頭痛、吐き気、手足の麻痺や言語障害、視覚障害などがあります。ボーッとしたり、物忘れ



ニッポン
ドクター和の

長尾和宏(ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。近著「薬のやめどき」「痛くない死に方」はいずれもベストセラー。関西国際大学客員教授。

れが多くなったりするなどの症状も出るため、高齢者の場合、認知症と誤診されることもあるようです。

脳の悪性リンパ腫の場合は基本、(生検以外の)外科手術は行いません。リンパは全身をめぐっているため、目に見える部分だけ取り除いても、根本的な治療にはならないのです。化学療法と抗がん剤治療が主体となります。

松方さんの治療も難しかったようで、入院3カ月後には意識がハッキリしなくなり、秋頃、抗がん剤投与をしている途中で脳梗塞を起こしてしまいました。これにより悪性リンパ腫の治療は一時中断。その後、治療は断続的に続いたようですが、徐々に衰弱。最後には体重40キログラム台になったと報道されていました。

それから1年足らずの今年1月21日、帰らぬ人となりました。

りました。74歳でした。印象的だったのは、親友・梅宮辰夫さんの男泣き会見です。最後の面会は死の1カ月ほど前で、「意識がなくなるとボーッと見えている。オイツて言っても反応しなかった」と涙ながらに語りました。

「遺品も花もない。たった1時間、骨だけがバラバラになって出てきた。人間ってこんなに簡単なのかとつくづく思った」

看取りの医者でもある私は、この言葉に驚きました。俳優として男として、人生経験豊富なはずの梅宮さんをもつてしても、死の無常さを前に子供のように泣き崩れている…。

そうなんです。人は死ぬまで、いろいろなことやこいですが、死の前後というのは本当にあっけないもの。死ほど、仁義なきものはこの世に存在しません。

松方さんは生前、後輩の俳優にこんな言葉を残していました。

「もっともっとと人生しろ、人生しなきゃ良い役者にはなれない」人生しろ。マグロ釣り同様、なんと豪快な言葉でしょうか。松方さんのこの言葉を胸に、私も精いっぱい医者人生を精進いたします。